

1 審議会名	令和元年度(第6期)第9回上田市上下水道審議会
2 日時	令和2年2月7日 午前10時から午前11時45分まで
3 会場	真田地域自治センター 3階 講堂
4 出席者	大口委員、掛川委員、梶村委員、金井委員、甲田(京)委員、甲田(忠)委員、 小林(勉)委員、小林(裕)委員、高寺委員、高橋委員、田中委員、西澤委員、 根橋委員、布施委員、堀内委員、本間委員、山寺委員、山本委員
5 市側出席者	柏木上下水道局長、城下経営管理課長、山口サービス課長、 小井土上水道課長、藤極下水道課長、芳池丸子・武石上下水道課長 (以下経営管理課)黒岩課長補佐兼経理担当係長、真壁課長補佐兼経理担当係長、 青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年2月12日
協 議 事 項 等	

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

- ・ 昨年11月8日から「上田市上下水道事業経営戦略(改訂版)」の見直しについて審議を重ねているが、本日で最後となる予定である。
- ・ 経営戦略(改訂版)の完成に向けて引き続き、内容について慎重審議をお願いしたい。

## 3 議事

### (1) 上田市上下水道事業経営戦略の見直し(案)について

○事務局より事前に送付した冊子と資料1に基づき上田市上下水道事業経営戦略(改訂版)に対する審議委員からの意見・質問に対する回答及び修正について説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 災害に対し、水道施設等で使用する電力のうち、自家発電はどのくらいの時間を想定しているのか。

(事務局) 今回の災害では、腰越浄水場は3日間停電したが、その間、発電機に軽油を継続的に入れながら対応した。石舟浄水場においても2日間停電し、同様に軽油を継続的に入れながら対応した。

(委員) 軽油は途中で補給したのか。

(事務局) 石舟浄水場の発電機のタンクが小さく3時間に1回程度軽油の継ぎ足しで行った。

(委員) 大水の時はいいが地震の場合、ガソリンスタンドの軽油の汲み上げポンプ自体が無いスタンドがほとんどである。その場合、備蓄としてどのようにしていくか、経営戦略の中の表現としてはこのままで構わないが、内部で検討したほうが良いのではないか。

(事務局) 実際は他に備蓄はしていて入れ替えてといった作業をしていた。

(委員) 文言的に何時間をどうするという事になるとまた全部ひっくり返してやり直さないといけないので、そういう意味ではなく、通常のガソリンスタンドの防災対策をされているスタンドはごく僅かか無はず。そうするとなんらかの形でそれに代替する、半日や3時間程度といった場合はいいが、何日間にも渡ってくるとそうはいかないので、軽油の備蓄をどうするかという問題もあるし、それに対する具体的な代替案は内部で検討をお願いしたい。

(事務局) 今後、備蓄方法等を含めて検討していく。

(事務局) 下水道施設においても台風 19 号の影響で南部終末処理場等でも停電になった。その場合には自家発電になり、燃料は軽油ではなく重油を使っている。重油の単価契約している市内業者にタンクローリーで 1 回は運んでもらったが、その後手配がつかなくなり、県へお願いし、急遽県の関連する業者からタンクローリーで運んでもらうという対応をした。災害支援の関係する業者と連携し、皆様に迷惑の掛からないような処理場等の運営を心掛けたい。

(委員) 適宜、市で備蓄するのは大変だと思うが、備蓄をするという考えにするのか、業者をお願いするのか、ただし業者も非常用ポンプで非常用発電を動かすことも大変だと思うので、それは困ると思う。軽油あるいは重油等に代わるエネルギーにするのか、なんらかのことをやっておかないと実際に今は大水だけの話だからいいが、地震の時などいざという時にあまり安全な場所ではない気がするので、内部で検討を進めてもらいたい。

(委員) ①10 ページと 34 ページの「3 災害・危機管理対策」中の台風の表現だが、10 ページ(水道事業)は「令和元年の台風の 19 号では、～」となっているが、34 ページ(下水道事業)は「台風 19 号(令和元年 10 月)により～」となっており、同じ項目なので統一したほうが良いのではないかと。

②34 ページ「これまでに想定のない浸水などの～」となっているが、「これまでに経験したことはない浸水などの～」もしくは「これまでに想定したことのない浸水などの～」表現の方が良いのではないかと。

③34 ページの有収率の表と 35 ページの人材育成の表は「※全国平均の平成 30 年度決算は未発表」となっているが、まだ未発表なのか、新たな数値になるのか。

(事務局) ①どちらかに統一する。

②「これまでに想定していない浸水などの～」に修正する。

③有収率と人材育成の表については再度確認し、新たな数値が出ていれば修正し、未発表であれば引き続きこのままの表記とする。

(会長) 本日の修正部分については事務局に一任することとし、上田市上下水道事業経営戦略(改訂版)(案)について承認することとしてよろしいでしょうか。

全委員承認

(事務局) 経営戦略(案)につきましては、今後、市の中で再度確認を行い、最終版を委員の皆さまに送付します。

また、議会への報告や上田市ホームページへの掲載を行い、市民への周知を図っていきます。

ご審議ありがとうございました。

(2) 藤原田処理場の農業集落排水事業会計から公共下水道事業会計への移行について

○事務局より資料 2 に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

(3) 上田市の上下水道について

○事務局より資料 3、4 に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) ①人口が減ってきて水道料金を値上げしないとやっていけないということが国内でも相当あるということだが上田市はどうなのか。

②おいしい水とはどういうことを言うのか。

(事務局) ①今後人口減少していく中で、老朽した管の更新、地震対策の耐震管への更新や新たに風水害の対

応も求められるということで、水道事業、下水道事業含め全国的に経営環境が厳しくなっているのが現実。上田市の場合、料金改定、値上げ等が必要なのかということだが、これについては今回の経営戦略、水道ビジョン、下水道ビジョンの中の財政推計で示されたとおりである。現在の上下水道料金は令和2年度までは据え置きという形で決まっているが、令和3年度以降をどうしていくのかはこれから推計して来年度の審議会に示し、水道料金、下水道使用料それぞれ審議していただきたいと考えている。今、軽々にこうだとは言えないが、ビジョン等で推計する中では、10年後には水道事業については現在の手持ちの現金がほぼ底をつくという推計となっている。これは料金改定しないまま10年間投資等に回した場合、10年後には現金が枯渇するという事で一切の工事、日々の修繕等ができなくなる。そうならないように、私どももできる限り業務改善をし、支出を減らすことが大前提であるが、そうしてもどうしても足りないという事になれば、市民の皆様をお願いして料金を上げさせていただくしかない。これは上田市だけではなく、全国的な課題となっており、特に簡易水道等小規模な自治体ほど事態は深刻で東京都や横浜市など大きなところは若干余裕があるようだが、上田市は16万の都市で事業継続にかなり厳しい状況である。

②おいしい水の要件は、厚生労働省の方でおいしい水の要件の数値を示しており、通常行っている水質検査の中においしい水が影響する項目が7項目ある。一つは蒸発残留物：「主にミネラルの含有物を示す。量が多いと苦み等が増し、適度に含まれるとまろやかな味がする。要件値30～200 mg/L、上田市は45～64 mg/L」。硬度：「ミネラル分である、カルシウム及びマグネシウムの含有量を表す。硬度の低い水はクセがなく、高いと好き嫌いがでる。要件値10～100 mg/L、上田市は、16～40 mg/L」。遊離炭酸：「水に爽やかな味を与えるが、濃いと刺激が強くなる。要件値3～30 mg/L、上田市は1.8～4.6 mg/L」。有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）：「多いと渋みをつけ、多量にとると水の味を損なう。要件値3 mg/L以下、上田市は0.2～0.7 mg/L」。臭気度：「匂いが付いていると不快に感じる。要件値3度以下、上田市は3度未満」。残留塩素：「水道水中に残留している消毒用塩素のこと。要件値0.4 mg/L以下、上田市は0.4 mg/L以下」。水温：「最高20℃以下、上田市は2.2℃～20.5℃」。となっている。上田市は7項目すべて、厚生労働省で示されているおいしい水の要件の中に入っている。

(局長) ①について) どの自治体も人口減少である。特に町、村といったところが今後、水道事業を維持していくことが非常に難しいという中で、国の方から今までの行政の枠を超えた広域化といったことを検討していこうと、例えば、施設に余裕があるところがあれば他のところに融通していくといった連携を取りながらやっていくといった方針が示されている。確かに、それぞれの自治体で人口が減り、収入が減っていくが、更新していく維持費はかかるとなれば当然料金が上がってしまうが、そういったことを少しでも抑えるために広域連携というものを今後やっていくということで、経営戦略にもあるが上田市も「千曲川流域グループ」や「上小圏域グループ」といったところで検討に入っている。そういったことも含め、皆様に負担がかからないようなものを将来的に考えていきたい。

(委員) ①広域化になった場合、費用対効果として経費は少なくなるが、水がまずくなるといったことがないように検討願いたい。

②各施設で出る汚泥はどのように処理されているのか。

(局長) ①広域化を実際実現するまでには様々な方面から色々な検討が当然必要となる。その中で、水質の事も含め今後連携を図るべく団体とは話をしていく。

(事務局) ②汚泥について昔は埋め立て処分をしていた。しかし、環境問題や埋め立て地の確保等が難しくなり、上田市でも最近はずっと焼却をして、例えばセメントの原料にしたり、ブロックやレンガの材料にするように排出をしている。また、公共下水道については事業所の排水もあるため、中には重金属を含んでいるものもある。こういった部分は建築資材の原材料として用いてもらい、成分分析を行い肥料等に利活用できるものは肥料に加工するという事を仕様で載せ処分している。処分の割合については、建設資材等に用いられるものは約90%、肥料等に用いられるものは約10%となっている。

・委員からの意見・質問なし

## 5 上下水道局長あいさつ

- ・ 昨年11月から3回にわたり「経営戦略（改訂版）」について審議いただき、感謝申し上げます。
- ・ 今後は中長期的な経営基本計画であるこの「経営戦略（改訂版）」を基に計画的な施設の整備更新等を進めるとともに、引き続き健全経営に努めていく。

○事務局より事務連絡

## 6 閉会

以上